

久住天幕山行

【報告者】Y川

【日時】2018年7月11日～同12日

【天候】2日間とも晴れのち曇り

【参加者】Y川

《コースタイム》

7/11 5:30 起床 6:30 長者原出発 8:30-9:00 坊がつる TS 10:40 三俣山南峰 11:35 諏蛾守越
12:10 法華院 12:30 坊がつる 15:00 大船山 16:30 坊がつる TS
7/12 3:00 起床 4:00 坊がつる出発 4:45 銚立峠 6:05 白口岳 6:50 稲星山 7:30 中岳
7:55 天狗ヶ城 8:40 久住山 10:00 星生山 10:30 扇ヶ鼻分岐 11:30 牧の戸峠

《 報 告 》

[7月10日]

夏の北アルプス登山に向けた総合的なトレーニングのために本山行を計画した。もともとは久住17summits(注1)を日帰りで行おうと考えていたが、天幕山行の慣熟も必要と考え、1泊2日の歩荷登山とした。前日10日、遅番勤務後に車でアプローチ開始。先の大雨の影響か九酔溪は通行できず。四季彩ロードを経由する。長者原で車中泊。星空がきれいである。

[7月11日]

前日の就寝が0時だったので、起床は5:30とやや遅めである。快晴の長者原であるが、暑くなりそうだ。カップラーメンとおにぎり炭水化物を仕込み、坊がつるへ向けて出発。本日は坊がつるへ天幕(注2)を設置し、三俣山と大船山への空荷ピストンを行う。どちらを登るにしても、一度坊がつるへ戻ることになるので、キツめの三俣山から登ることにした。三俣山への直登ルートはエアリア上で破線の表示であり、坊がつるから取り付き地点に標識はない。木々が密集しており道は狭いが、踏み跡ははっきりしている。かなりの急登である上に風もなく日差しもあるのでものすごく暑い。三俣山からは諏蛾守越を経由して坊がつるまで戻る。まだ5時間程度しか歩いていないが、かなり疲れた。雲もだいぶ出てきたし、大船山に行くかどうか少し迷う。がしかし、早く着いて天幕でグデっとするのもトレーニングとして不健全な気がするので、意を決して坊がつるを出発する。大船山への登山道は大雨でえぐられていて岩がむ



き出しの箇所が多く、歩きにくい。小休止を何度も入れながらゆっくり登る。大船山からの下りはペースを落とすことなく坊がつるまで戻ることができた。法華院の温泉に入り、天幕で夕食。今夜はチャーハンとハムステーキとした。チャーハンはα米に FD 卵スープを入れてお湯で戻し、それを具入りラー油(注 3)で炒めるといもの。ラー油の分量を間違え、かなり辛い焦げ目もついてなかなか良い。ハムステーキは単に焼いただけだが、当然美味しい。就寝は 19 時。

[7月11日]

3:00 起床。今夜も星空がしっかり見えるので、天気は大丈夫そうだ。朝食はスープ素麺とした。ソーメンを茹で、そこに FD 卵スープを放り込むだけだが、とても食べやすく朝食に適しているようだ。少し塩辛かったので、無塩素麺が良いかもしれない。本日は荷物を背負っての縦走であるが、フライシートが水をたっぷり吸って重いことこの上ない。まだ暗いが銚立峠への道は歩きやすく迷うことはない。銚立峠から白口岳までは少し急な登りだが、まだ涼しいので昨日の三俣山に比べるとだいぶ登りやすい。しかし、狭い登山道に朝露たっぷりの草がもっさり生えている。まるでガソリンスタンドで洗車される車のようにずぶ濡れになりながら登る。白口岳からは稲生山、中岳、天狗ヶ城、久住山と 1700m 級のピークを順に踏んでいく。この辺りはアルプスさながらの景色となり、クライマックスといったところか。しかしそこから一転、久住山から下ろうとしたところ、学生の大群が久住別れの方から押し寄せて来るではないか。話し声からするに、女子学生 only のようである。彼女らとすれ違うには、かなりの精神力を必要とする。どうやって巧くやり過ごすか考えながら久住別れへの分岐点に戻る。幸い分岐点周辺は広い尾根状になっているので、ここで道を少しずらしてかわすことができた。それにしても、こんな暑い中ご苦労なことである。星生山へは岩場混じりの登りであるが、昨日と同様に暑くて疲れが出てくる。西千里ヶ浜の道はあり得ないほどフラットで、どんなに歩きやすいだろうか。星生崎のピークで休んでいると、先ほどの学生群団の引率



大船山から坊がつる方面。三俣山は雲の中。



本日の夕食。



天狗ヶ城は隠れ家的なピーク。



久住山から三俣山方面。

女子学生の大群

者が久住山々頂で声を張り上げている。どうやら彼女らは 9:30 に山頂を出発するらしい。どうせ牧ノ戸峠に下山するのだから、急がないと再び接近してしまう。星生山を経て扇ヶ鼻分岐まで来るが、あと 5 分もすれば追い付かれていただろう。しかし、ここから先はスイスイ登山道なので、サクサク歩いて一気に牧ノ戸峠まで降りる。途中、空自の U125(注 4)が九重周辺を飛行するのを見かけた。かなりの低高度で飛行しているが、訓練だろうか？ 小さい機体だが、空港や基地以外で

空自のU125 救難捜索機



見ると迫力がある。さて、11:30 には牧ノ戸峠に着くことができた。計画では黒岩山を経て長者原に戻ることとしたが、19時に福岡で晩飯の約束があるので、ここで登山を打ち切ることにした。ちょうど都合よく 11:42 発のバスで長者原まで戻ることができたのは幸運であった。長者原の食堂でとり天定食を頂き、釜ノ口温泉の炭酸泉に入って帰福する。

今回の山行において、天幕設営や朝夕の食事に関しては特に問題なかった。両日とも後半は少しバテ気味だったので、行動食をもう少し摂っても良かった。また、岩がゴロゴロした道が多く、地下足袋では正直しんどかった。平坦な道でも岩が混じるとなかなかペースを上げにくいのである。この辺りが地下足袋の限界かもしれない。北アルプスまでに登山靴を新調し、試し履きもしてみよう。

来週もまた九重に参ります。ありがとうございました。

注 1 星生山、久住山、天狗ヶ城、中岳、稲星山、白口岳、大船山、北大船山、三俣山の 9 座を総称して久住 17summitsというらしい(某季刊紙)。1 日でやっつけるならもっと涼しい時期にチャレンジした方がいいかもしれない。今回は北大船山だけは踏んでいない。

注 2 O原登山具店の売り尽くしセールで安く購入した「エスパースマキシムナノ」。冬でも使えるらしい。O原さん、ありがとうございました。

注 3 いわゆる「食べるラー油」。高地に行くと漏れ出すのでパッキング注意。

注 4 救難捜索機。この辺りだと芦屋基地の所属か。